

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 イワカガミ棟)

事業所番号	0670400910		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム楓の家		
所在地	山形県米沢市金池6丁目8番26号		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 1 日	開設年月日	平成 15年 11 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「上杉城下を堪能しながら、地域の方々とこの地域でゆったりと過ごしましょう。愛を尊び人を信じ、人に尽くした人生をずっと歩みましょう」の理念のもとご利用者様ひとりひとりに寄り添い安心して過ごしていただけるように、職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上杉城下の米沢市街に位置するこの事業所は、直江兼継の「愛」を理念に加え、法人の湖山ケアを基本に地域密着型介護サービスの理念を実践し、職員がこやまケアにそって自己評価を行い常に利用者本位のサービスが実践されるよう努力している。事業所と主治医、家族との情報の共有や法人の医療、福祉施設との連携協力関係等が行われ、利用者が安心して過ごせる環境が整っている。職員育成にも熱心で、法人による研修や事業所で行われる勉強会、外部研修への派遣、同業者との交流等様々な学ぶ機会を確保し、法人の研修を受け行事の見直しや医療連携等サービスの質の向上に向け努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 24年 1月 20日	評価結果決定日	平成 24年 2月 14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関やフロアに掲示しており、いつでも確認する事ができ、共有・実施している。	理念は振返りを含め職員間で見直しを行い確認している。法人のこやまケアを基本に毎月ケアの目標を決め理念の実践に繋げている。職員は理念の実践の一つとして利用者の馴染みの場所を大切にし、買い物等外出の際地域との係わりの継続に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地区の高齢者の集まり(にこにこ会)へ参加し、交流を図っている。地域の行事(夏祭りや文化祭)に参加したり、散歩時に挨拶したりと交流している。楓の家の畑作りを地域の方と共に行い、収穫祭でも交流をしている。	町内会に加入し、毎月地域の高齢者の集まりに参加し交流している。また、地域の行事等に参加すると共に、事業所で行われる楓祭にたくさんの地域の方の参加を得ている。職員は散歩や買い物等地域の方と係わるときは挨拶を大切にし地域の一員としての交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で話をさせていただいたり、行事等に参加していただき交流の中、理解をしていただけるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、日常生活状況等を報告している。外部評価結果の報告や取組みの報告も行い、意見頂き、サービスの向上に努めている。会議の内容は、毎回ご家族様に郵送している。	地域代表、市職員、家族代表等で構成され、2か月に1回開催されている。会議では事業所の年間計画や避難訓練、事故事例、感染症対策等事業所の取組を話し合い、委員より意見をいただいている。残念ながら地域代表の方の都合等によりあまり出席を頂けない状況である。今後も出席の働きかけを努力していく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市の相談員が来所され、意見いただいている。頂いた意見を情報共有している。市役所へ直接訪問又は電話にて相談行なっている。	運営推進会議での状況報告を始め、個別具体的な案件については、その都度電話や市役所に出向き相談を行い助言をいただいている。また、2か月に1回市の相談員が来所し利用者との話し合いや意見をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>勉強会開催し、身体拘束のないケアに取り組むように努めている。ご家族様には、契約時説明し、理解をしていただいている。</p>	<p>管理者等は勉強会を開催し職員に身体拘束についての周知を図っている。職員は身体拘束の弊害や禁止される具体的な行為を理解し、危険を引き起こす原因分析を行い話し合い安全のためと称して安易な拘束を行わない工夫をしている。外出したがる利用者には見守りやよく話を聞くこと、寄り添うことを重視し、鍵をかけない工夫をしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会開催し、理解を深めている。グループホームの倫理綱領を明示している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>書類回覧を行い職員が理解と活用できるように努めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時説明し、文面で明示している。個別に説明を行い、不安な事や疑問等尋ねながら説明し、同意いただいている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議・アンケートを実施し、意見の言える場を設け、運営に反映している。</p>	<p>毎年、アンケートを実施し、家族から意見や要望を伺う機会を設けている。出された意見は、職員間で検討しサービスの向上に繋げている。職員は面会時や家族交流会等家族との関りを大切にし意見を表しやすい関係の構築に努力している。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営会議・ユニット会議・ミーティングにて意見を言える場を設け反映させている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課があり、個人の目標を設定し、向上心を持って働けるよう環境を作っています。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催のグループホーム勉強会に参加できる機会を設け質の向上に取り組んでいる。事業所内でも勉強会を開催している。法人主催外の研修へも参加している。	こやまケア実践評価表を基に職員の評価を行いケアの実際や力量の把握を行っている。法人による研修や事業所で毎月行われる勉強会、外部研修への派遣と学ぶ機会は十分確保されている。昨年は法人研修の受講後に、事業所としての取り組みに活かし、新たに楓際を実施しその結果を発表しフォローアップを行う取組もあった。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	置賜地域グループホームブロック会主催の交換実習、勉強会、交流会に参加し、学んだ事を報告し、サービスの向上に努めている。地域のケアマネジャーの事例検討会に参加しネットワークの構築に努めている。	グループホーム協議会主催の交換実習や勉強会、交流会を利用し、管理者同士、職員同士の交流の場を大切にしている。また、地域のケアマネジャーの事例検討会など同業者との交流の機会もある。交換研修や交流の場から他事業所の優れている点や、参考になる取組等職員間で話し合いサービスの向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様に聞き取りを行い、困っていること、不安の解消に努め、安心できる環境づくりを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が相談しやすい場になるように配慮し、確認しながら進めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議を開催し必要とするサービスを見極めケアプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に献立を立てたり、買い物に出掛けたりしている。また、ご利用者様の生活歴や習慣などから役割を見つけ行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族交流会を開催し参加いただいたり、面会時に状態報告行っている。毎月介護記録をご家族様に送り、書面でも報告行っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店に出掛けたり、友人が訪れたりと交流の場を途切れない様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やお茶の声かけを行って利用者同士が関わり合えるように支援している。他のユニットとの交流もできるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後の入院や施設への入所についても情報提供を行い、スムーズに移行できるようフォローしている。相談や支援できるように今後も努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、意見を取り入れ、定期的にケアプランの見直しを行い、希望の把握に努めている。日常の会話の中からも、引き出せるようにしている。	センター方式を活用し、利用者との普段の会話や係わりの中から気づき等を記録に残し、希望や意向の把握に努めている。職員は利用者が繰り返して話すことや動作から利用者の気持ちを察し本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を基に仕事や趣味等、これまでの生活歴を生活に生かせるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録への記入、毎日のミーティングで状態報告、確認を行い心身(健康)状態に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリング、定期的なサービス担当者会議を開催し、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	担当者が毎月モニタリングを行い、ユニット会議で職員間の意見交換やアイデアを出し合い、サービス担当者会議での家族の意見を取り入れながら、計画作成担当者が計画の見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録の記入を行い、気づきや結果を具体的に記入している。毎日のミーティングでも気づいた事を話しケアに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れたり、地域の文化祭に作品を出品している。2ヶ月に1回の避難訓練を実施し、地域の方々に参加呼びかけを行っているが、参加は見られていない。 毎月(冬期間を除き)25日に地域の行事に参加して楽しむ事ができるようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様及びご家族様の希望をお聞きしながら、かかりつけ医と連携をとり適切な医療が受けられるように支援している。	通院記録簿を用い、主治医に利用者の状態や経過を報告し、家族には診察結果等を説明し、主治医、家族、事業所間での情報の共有が図られている。昨年、法人の研修会で、担当者会議の中で話し合われた新たな医療機関との連携の構築について「医療連携と主治医との関わりについて」と題し発表も行われた。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での疑問や不安に思ったことを看護師に相談し、ひとりひとりが適切な看護が受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、安心できるように、面会に行き、その際看護師や相談員と情報交換を行い、関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議で、話し合いをもって、事業所できる事を説明している。医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいけるように努めている。	利用開始時に事業所の方針等の説明を行い、状況に応じて担当者会議等で事業所の出来る事出来ない事の確認を行い、繰り返しの話し合いと合意を得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に焦らず対応できるように、ユニット会議でシミュレーションを行っている。消防署主催の救命講習も定期的に参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、避難訓練実施。2ヶ月に1回事業所のみでの実施含め行っている。地域の方の体制の構築はできていない。	併設事業所との合同訓練を含め年8回避難訓練が実施されている。3月に実施した避難訓練が先の震災の際役に立ったと職員一同避難訓練の重要性を再確認している。	地域の方の参加や連携が未だ実現していない。今後も地域との交流や協働関係の理解を求め、地域の協力の働きかけを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に合わせた親しみのある声かけや、自尊心を尊重する対応を行い受容と傾聴に努めている。	こやまケアの実践を通じ、普段から人格の尊重や言葉かけには注意している。職員は常に利用者に対する敬意を忘れず対応やプライバシーを損ねない言葉かけに努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が着たい服、食べたい物等お聞きし、希望がかなうように支援している。選択しやすいような声掛けを働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの日常生活のリズムを大切に、希望がかなえられるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの床屋に出かけたり、その方の希望に応じている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を聞きながら献立をたてたり、無理のない範囲で、食事の準備、片付けを職員と一緒にしている。毎食時、職員も一緒に食事をし、会話の中からさりげなく好み等を聞き、取り入れている。	献立は利用者の希望を取り入れ、毎食、ユニット毎に食事作りが行われている。準備や片付け等利用者も能力に応じて一緒に参加し、また、自家菜園からの収穫物や季節の物を取り入れ、行事食等も加えながら日々食事が楽しみになるような工夫も加えられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、水分チェック表活用し把握行い、少しでも水分を取っていただけるように工夫している。主治医より指示ある時、ケアプランに取り入れて水分量、食事量確認・管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとりひとりの状態に応じて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりに合わせてトイレにお連れし、トイレでの排泄を促している。排泄パターン・習慣をミーティングで話して支援している。	排泄チェック表を参考に排泄リズムを把握し、職員間で話し合い一人ひとりに合わせた声かけや誘導によりトイレでの排泄や排泄の自立に向け努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を立てる際、食物繊維を取り入れたりと、毎日体操を行ったりと便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様の希望に添って入浴を提供している。希望の無い方は、職員より声かけ行い入浴を提供させていただいている。	時間帯等の決まりはなく、毎日入浴することも可能である。入浴したくない利用者にも声かけやタイミングを変え対応している。入浴剤やゆず湯等入浴を楽しむことができる工夫も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様ひとりひとりの状態に応じて、居室や和室で休んでいただいている。室温や部屋の明るさにも気を付けて支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時は、主治医にご利用者様の状態や経過を報告し、主治医からの指示等は記録に残し、その記録が職員で周知できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かして家事等役割を持っていただけるように支援している。散歩、外食等気分転換にも努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良いときは、ドライブや近隣の公園へ散歩行っている。ユニット全員や個別で外食も行っている。毎月地域行事のニコニコ会に参加させていただき地域の方とも交流を図っている。	行事としての外出の機会や、毎月行われる高齢者とのふれあいの場の参加、馴染みの場所への外出、買い物、気分転換としての散歩等戸外に出かける機会は確保されている。お盆や正月の外出等家族の協力を求め出かけられる工夫も行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は職員の方でお預かりしていますが、外出時ご利用者様に財布をもって頂き、お金を支払っていただけるようにと工夫し支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの希望がある時は、電話ができるようにお手伝いしている。 毎年、ご利用者様と職員が一緒になり年賀状作成しご家族様等とのやり取りができるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によりすだれを利用し光の調整を行ったり、トイレの場所等迷わないように張り紙を行い共有の空間作り努めている。	畳に掘炬燵、ダイニングルーム等思いおもいにゆったりと過ごせる空間が確保されている。共用空間は季節の飾りつけや、職員と利用者による思い出の作品、思い出の行事の写真等派手すぎず幼稚にならないように注意され、温度湿度の管理はもとより空気清浄機の取り付けもあり居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士がお話ができるように席を配慮したり、和室やソファでゆっくり過ごせるように環境を整えている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご利用者様・ご家族様と相談しながら使い慣れたものを置いていただいたり居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は利用者の住み慣れた環境の継続に配慮され、馴染みの物やそれぞれの好みの物の飾りつけ等居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレート、トイレにはわかりやすいように張り紙を貼っている。ほうきを見える場所に置き、ご自分で掃除できるように工夫している。トイレ・廊下には手摺りを設置している。			